

nakcazawa

『使える弁証法』の第1回プレゼン(棗田、金山、増田)に関するスレッドです。前半の「弁証法」と後半の「螺旋的発展の法則」の関係がやや説明不足に感じたので、皆さんの理解を高めるために、最後にちよっとおせっかいな解説を入れさせてもらいました。

授業冒頭に僕から合同ゼミに関する注意を促したために、場を冷やしてしまい、3人にとってプレゼンをやりづらくさせてしまいました。その点をおわびします。(本当は注意を最後に回したかったのですが、時間不足になる可能性もあり、今後のゼミ活動の指針にもなる重要な注意でもあり、最初に言わせてもらいました。)

籠谷郁吹

螺旋的発展がとても難しかったです、話を上手にまとめて説明できていたので、次回自分の時にも参考にしたいと思いました。

棗田進太郎

前回のプレゼンからあまり日にちがながい中で個人的には上手くまとめれたと思う。しかし、グループとしての発表でみると、中々打ち合わせができず内容の共有が甘かったと思った。次回のプレゼンからは事前準備はもちろん、メンバーがどんな発表をするのかを把握して流れを読むことが大切だと感じた。

西川茉里

弁証法は私自身とても興味のあるテーマでした。

テーゼアンチテーゼを自分で考えるのはかなり楽しく、それ以外にも難しい質問をわかりやすく伝えようとする姿勢がとても良かったです。

螺旋的発展は個人的には理解出来たと思います。日々生きている中で、些細な行動が積み重なって前進後進をするうちにグレードアップした良い結果になるというのは今日の話聞いて感じました。

立て続けにプレゼンがある中で上手いこと90分話せて感心しました。お疲れ様です!

三木美裕理

今日はいつもみたいにグループワークというよりは、みんなで考えるって感じですごく楽しかったです。弁証法のように矛盾している2つから良いところだけをとって更に良いものを作る考え方は素晴らしいなと思いました。

高本恭吾

手紙→電子メール→ヴォイスメールというように見える発展のプロセスも、電話というアンチテーゼを媒介にしている螺旋的発展の結果であるので、傍からみれば、ただの発展や進化には見えないものも、

実はそこにはアンチテーゼの役割を担った重要な何かがあるのかと思います、自分の考えがより深まったと感じた。

川端 真由

弁証法と螺旋的発展のそれぞれについては何となく聞いたことがありましたが、そのふたつを組み合わせで考えたことはありませんでした。

考え方を組み合わせて応用することも大事だと思いました。

金山恵大

弁証法と螺旋的発展のつながりを上手く説明できず、最後の先生の説明がなければ理解できなかったのではないかと思った。これからはどう伝えたら 2 つの要素がつながっていることが理解しやすくなるのかを工夫して伝えていきたい。

尾崎星太

グループワークをあまりせずに、聞き手側に質問を投げかけながらプレゼンを進めていたことが印象的だった。螺旋的発展の考えは面白いと思った。

清水陸人

聞き手に何度も質問を投げかけながらプレゼンを進めていたので、考えることが多かった。螺旋的発展に関しては、理解しやすかったので、プレゼンの仕方が上手いなと思いました。

崎山綾香

弁証法という言葉は聞いた事があったが詳しくは知らなかったので、今回のプレゼンでは分かりやすい例をいくつか用いながら説明してくれたので理解が深まって良かった。

白澤卓也

今回は、みんなが主体的に参加できるようなプレゼンの仕方だったので楽しかった。弁証法についての導入部分が分かりやすくて、しっかり授業に入れた。

増田光樹

使える弁証法を読み終わってからのプレゼン作る時間が少なかったなので、わかりやすく簡潔に聞き手に説明できなかったと思う。終了後の先生が黒板に書いた螺旋的発展の解説が非常に明瞭でわかりやすかったなので、図をつかって説明できるくらい本の理解を深めるべきだと反省しました。

中井 美裕

弁証法も螺旋的發展もイメージが湧きにくいし馴染みがないと感じましたが、グループワークでテーゼとアンチテーゼを設定したり、身近な物事で考えたりすることで、わかりやすかったです。

つちやよしき

「使える」弁証法ということで、実際の生活にも弁証法的な發展によってできたものが多いんだなと気づけた。

身近なものからその構想の元になったテーゼ、アンチテーゼを探してみたり、時間が経つにつれて新規商品の開発がされ、一度下火になったものでもアウフヘーベンを経て再發展する可能性もあるというのに納得した。

新谷

何度も繰り返して弁証法について説明してくれたので、内容が理解しやすかった。テーゼとアンチテーゼを考えるのは面白かった。最近の進化したものは弁証法から生まれているのだと感じた。

nakcazawa

『はじめて考えるときのよう』は『友だち幻想』と比べると内容がより抽象的になっているものの、説明に使われている言葉の大半は日常語でした。『使える弁証法』は『はじめて考えるときのよう』と比べると、「テーゼ、アンチテーゼ、ジンテーゼ、アウフヘーベン、螺旋的發展」といった日常的に使用されない抽象語が多く登場しており、議論がさらにもう一段階アップした感じです。そのぶん、プレゼンにおける「わかりやすく説明する」ための工夫の必要性も高まるので、準備がなかなか大変だったと思います。

せっかく冒頭で「高校の倫理の授業で聞いたことないですか？」と前振りしたのに、声かけだけで終わってしまったことが残念です。僕であれば、高校の倫理の教科書からヘーゲルの弁証法に関する部分の抜粋などを配って、それを誰かに音読してもらうなどして、高校時代に教えられていた内容の確認をしましたね。当時は、弁証法が經濟の發展と関係しているなんて、思いもしなかったでしょうから、高校時代に学んだ内容を確認することで、プレゼン内容のサプライズ感を増すことができたのではないのでしょうか。あと、わかりやすい図・イラストと具体例の準備がもう少し多くあれば良かったかな。